

# 精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名: 大阪大学医学部附属病院連携施設 精神科専門医研修プログラム
  
- プログラム担当者氏名: 田上 真次  
住 所 : 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2、D3  
電話番号 : 06-6879-3051  
F A X : 06-6879-3059  
E-mail : tagami@psy.med.osaka-u.ac.jp
  
- 専攻医の募集人数 : ( 10 ) 人
  
- 応募方法:  
書類は Word または PDF の形式にて、 E-mail にて提出してください。  
電子媒体でのデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出してください。
  - ・ E-mail の場合 : tagami@psy.med.osaka-u.ac.jp 宛に添付ファイル形式で送信してください。  
その際の件名は、「専門医研修プログラム-の応募」としてください。
  - ・ 郵送の場合: 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2、D3 田上真次 (診療局長) 宛にご自身で簡易書留にて郵送してください。また、封筒に「専攻医応募書類在中」と記載してください。
  
- 採用判定方法:  
一次判定は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接を行います。科長・診療局長が履歴書および記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断します。

## I 専門研修の理念と使命

### 1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑄を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

### 2. 使命(全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を洒養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

### 3. 専門研修プログラムの特徴

大阪大学精神医学教室は講座開設以来 120 年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅

広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍している。

基幹病院となる大阪大学医学部附属病院 神経科・精神科は、52床のベッドを有し、閉鎖病棟(38症)、開放病棟(14床)、隔離室(4床)、と十分なスペースを確保しており、統合失調症およびうつ病などの難治症例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。また、認知症の専門的な診断についても幅広く対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、指導教官の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、適切な診断のうえで、薬物療法、精神療法、修正型電気痙攣療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行うことになる。研修の過程でほとんどの精神疾患の診断と治療についての基礎的な、そして実践的な知識を身につけることが可能である。

また、大阪急性期・総合医療センター、大阪市立総合医療センター、大阪医療センター、箕面市立病院、市立豊中病院、大阪警察病院、住友病院、日生病院、地域医療機能推進機構大阪病院(JCHO大阪病院)、関西労災病院、といった近畿圏の主要な総合病院を連携施設として有しており、身体合併症を有する精神疾患およびリエゾン精神医学を中心とした精神医療の研鑽を行うことが可能である。さらに、大阪府立精神医療センター、浅香山病院、榎坂病院、清風会茨木病院、箕面神経サナトリウム、ためなが温泉病院、阪和いずみ病院、和泉丘病院、大阪さやま病院、小阪病院、国分病院、美原病院、水間病院、吉村病院、七山病院、やまと精神医療センターといった近畿圏の主要な単科精神病院を連携施設として有しており、地域の精神医療、司法精神医学、児童精神医療、地域型認知症センターにおける精神科臨床などの研鑽を行うことが可能である。専攻医はこれらの施設をローテートしながら、臨床精神科医として幅広い能力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。

精神医学は、今まで心の科学、脳神経科学の進歩に伴い、生物学的理解が著しく進歩したと考えられるが、大阪大学精神医学教室は第一にこのような先端の自然科学的知識を大切に考えており、専攻医に対しては例えば認知症の診断の進歩、精神医学における分子生物学的損保などを含めた新しい知識の共有と理解に務めたいと考えている。さらに、精神医学は極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与している。大阪大学精神医学教室では精神医学の核となる精神病理学的知識を背景とした議論を行い、そもそも人間存在に対する理解を深化させるべく努めたいと考えている。つまり、自然科学的・生物学的な理解と、人文科学的・精神病理学的理解と、およびその他のアングルとから脳と心にアプローチすることを経験することで、幅広く深みのある精神科医を育成したいと考えている。その結果として、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてにおいて包括的な理解を深め、精神科医として質の高い臨床能力を培っていただくことが可能と考えている。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 153 1/30 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	1,5440	4,327
<b>F1</b>	1,722	928
<b>F2</b>	2,6219	6,201
<b>F3</b>	1,9610	3,347
<b>F4 F50</b> (成人)	1,0768	1,147
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	5,778	501
<b>F6</b> (成人)	1,511	132
<b>その他</b>	5,141	406

### 2. 連携施設名と各施設の特徴

#### A. 研修基幹施設

- ・施設名 : 大阪大学医学部附属病院
- ・施設形態 : 公的病院
- ・院長名 : 土岐 祐一郎
- ・プログラム統括責任者氏名 : 池田 学
- ・指導責任者氏名 : 田上 真次
- ・指導医人数 : ( 12 ) 人
- ・精神科病床数 : ( 52 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	250	71
<b>F1</b>	33	2
<b>F2</b>	437	74
<b>F3</b>	502	71
<b>F4 F50</b> (成人)	477	23
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	308	2
<b>F6</b> (成人)	54	1
<b>その他</b>	27	24

当院は 1034 床を有する大学病院であり、精神科は 52 床を有している。うちわけは閉鎖病棟（38

症)、開放病棟(14床)であり、別に隔離室(4床)を保有している。閉鎖病棟内には体育館を併設しており、精神障害者の回復期レクリエーションや作業療法、認知症予防のための運動療法指導などに活用し、さらに季節の行事(運動会等)にも活用している。疾患は、難治性の統合失調症やうつ病、および認知症の検査およびBPSD治療などが中心となっている。難治性疾患に対してはクロザリル療法(統合失調症に対して)および修正型電気痙攣療法(主にうつ病に対して)を行っているので、これらを経験することができる。また、総合病院であるので、身体合併症および精神科合併症妊娠などについても対応しており、思春期症例、摂食障害なども経験することができる。措置入院も引き受けており、精神保健指定医の取得についてもサポートしている。さらに当院では神経心理検査、脳機能画像およびバイオマーカーを用いた認知症診断を行っており、実践的な認知使用診断学を学ぶことができる。

## B 研修連携施設

### ① 施設名：大阪急性期・総合医療センター

- ・施設形態： 公的総合病院
- ・院長名： 後藤 満一
- ・指導責任者氏名：松永 秀典
- ・指導医人数： (3)人
- ・精神科病床数： (34)床
- ・疾患別入院数・外来数(年間、令和元年度)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
<b>F0</b>	226	54
<b>F1</b>	18	26
<b>F2</b>	31	98
<b>F3</b>	120	97
<b>F4 F50(成人)</b>	163	15
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	5	3
<b>F6(成人)</b>	10	3
<b>その他</b>	26	0

高度救命救急センターを含む29診療科、865床を有する公的基幹総合病院であり、精神科閉鎖病棟(34床)は、平成22年より精神科救急・合併症入院料を算定している。精神科は高度救命救急センターと密に連携しており、救命救急医療の現場での精神科診療を十分に体験できる(救急病棟への往診が年間約200件)。また、ほぼすべての診療科の協力を得ながら、身体合併症患者の治療を積極的に行っており(年間約300例の精神科入院患者のうち合併症患者が約85%)、一人の患者を複数の診療科で診る経験を重ねることにより、チーム医療の重要性を学ぶことができる。救急病棟以外の他科病棟への往診(年間約390件)では、一般病棟におけるせん妄・抑うつ・認知症等への対応、および、緩和ケア医療を学ぶことができる。さらに、麻酔科と連携した修正型電気けいれん療法(週3

回で年間 160～200 回)、身体管理を要する重度摂食障害の入院治療 (年間数例) も貴重な経験になると思われる。緊急措置入院、身体合併症のある措置入院患者の受け入れも行っている。

② 施設名：大阪市立総合医療センター

- ・施設形態：公立病院 (地方独立行政法人)
- ・院長名：瀧藤 伸英
- ・指導責任者氏名：甲斐 利弘 (専攻医 1 年：精神神経科研修担当)  
：飯田 信也 (専攻医 3 年：児童青年精神科研修担当)
- ・指導医人数：(12)人
- ・精神科病床数：(55)床 (実動 50 床)
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	261	13
<b>F1</b>	26	3
<b>F2</b>	808	110
<b>F3</b>	877	77
<b>F4 F50 (成人)</b>	628	17
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	1,399	80
<b>F6 (成人)</b>	27	1
<b>その他</b>	160	18

大阪市立総合医療センターは、許可病床数は 1,063 床で、9 つの臓器別センター、57 の診療科を擁し、がん医療、小児医療など高度・専門的医療を提供しているほか、周産期医療、3 次救急と小児 3 次救急医療機関、第一種・第二種感染症指定医療機関であるほか、精神科救急・合併症医療、災害医療などの政策医療も担っている大阪市の中核病院である。精神科は、18 歳以上を対象とし、28 床の病棟を持つ精神神経科と、18 歳未満を対象とし 22 床の病棟を持つ児童青年精神科の 2 科 2 病棟があり、「こどもからお年寄りまで」の全年齢層の患者を対象とした精神医療を行っている。ここでは、統合失調症や気分障害、神経症圏等の一般の精神科疾患の診断、治療を習得できる。さらに、精神科救急医療として緊急措置入院医療を経験することができるほか、総合病院精神科として精神科単科病院と連携した精神科合併症医療や、院内身体診療科の治療を受けている患者の精神症状に対するコンサルテーション・リエゾンや緩和医療における精神科治療・関与を習得できる。また、児童思春期病棟を活用した摂食障害や被虐待児の心の問題、また発達障害の精神科治療・関与を習得できる。このような中で、定例の病棟カンファレンス、症例検討会等により、症例への理解を深めるとともに、治療関係を含めた精神療法的関与、薬物治療等について学習、習得をはかる。また、関与した症例について学会発表、論文発表を行うよう指導を受ける。

③施設： 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（大阪医療センター）

- ・施設形態：公的病院（地方独立行政法人）
- ・院長名：是恒 之宏
- ・指導責任者氏名：田宮 裕子
- ・指導医人数：2人
- ・精神科病床数：4床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	246	4
<b>F1</b>	61	0
<b>F2</b>	307	3
<b>F3</b>	565	3
<b>F4 F50</b> （成人）	49	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	36	0
<b>F6</b> （成人）	24	0
<b>その他</b>	856	0

大阪医療センターは、遡ること明治2年、適塾の塾頭であった兵部大輔大村益次郎の命によって建てられた大阪仮病院（のちの大阪第一陸軍病院、さらには旧国立大阪病院および大阪大学へと分岐していく）を前身とする、22診療科、698床の急性期病院である。現在、国指定がん診療連携拠点病院として大阪市内のがん診療の中核的役割を果たし、地域医療支援病院として大阪市の地域医療を担う存在である。その他に政策医療として、循環器病、肝臓病、難病診療、災害医療など手がけており、AIDS/HIVブロック拠点病院、広域災害拠点病院として指定されている。精神科は昭和21年に有床の精神科として開設され、平成27年度までは無床の精神科として運営されてきた。平成27年10月より救命救急センターに搬送された自殺未遂を中心とする後方病棟として4床の精神科病床を開設した。常勤精神科医は3名（うち精神保健指定医2名）。精神科リエゾンを中心に、入院部門では自殺未遂後の介入、がんおよびAIDSの緩和ケア、せん妄予防、緩和ケア、外来部門は他科からの精神科へのコンサルテーション（児童思春期を含む）を中心としている。これらの臨床領域から緩和ケア領域、AIDS/HIV患者への精神医学的介入、救命救急センターに搬送された自殺未遂患者への介入（Lancet Psychiatry. 2014 Aug;1(3):193-201）を主な臨床研究として行ってきた。卒後臨床研修では初期研修として自院および、やまと医療センター、舞鶴医療センター、大阪府立精神医療センター、小阪病院で1カ月の精神科研修を行い、大阪大学医学部の卒前臨床実習も指導している。

④ 施設名：箕面市立病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：田村 信司
- ・指導責任者氏名：辻尾 一郎
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 0 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	318	0
<b>F1</b>	20	0
<b>F2</b>	33	0
<b>F3</b>	374	0
<b>F4 F50 (成人)</b>	676	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	15	0
<b>F6 (成人)</b>	60	0
<b>その他</b>	256	0

当院精神科は総合病院の精神科として、患者様が心の病を気軽に相談できる場所作りをモットーにしており、名前も心のクリニックとして活動している。外来診療においては、統合失調症や感情障害、認知症をはじめ、不安障害やストレスの問題など、精神科全般の患者様を幅広く診療を行っている。また、入院診療においては精神科医師、主科の医師、病棟看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、臨床心理士などがかわり、チーム医療を心がけている。

当院には精神科病床はないが、他科の入院患者様の精神的治療（リエゾンコンサルテーション）を中心に診療活動を行っている。年間約 600 名のコンサルテーション枠を用意し、また、その場に応じ、他科の医師からの依頼を受けており、常時約 40 名強の患者をフォローしている。また緩和ケアチームや認知症ケアサポートチームに属しておりチーム医療に積極的に参加している。緩和ケアについては緩和ケア認定看護師などと協力をし、回診を中心に癌患者の心のケアのサポートを行っている。また、認知症ケアサポートチームの一員として、認知症ケア認定看護師などと協力をし、入院中の患者様の認知症ケアやせん妄の調整などを行っている。

外来治療は基本的には予約制ですが、現在のところ、随時初診の患者も受け付けている。また、地域の先生方との連携も密に取っており、地域連携枠を作り、スムーズな連携を心がけている。週 3 回ですが心理検査やカウンセリング、認知症評価検査などを心理療法士が行っており、診療の質の向上に努めている。また、週 2 回、非常勤医師や臨床心理士とともに外来患者のカンファレンスを行っている。

⑤ 施設名：市立豊中病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：堂野 恵三
- ・指導責任者氏名：橋本 千穂
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	246	4
<b>F1</b>	61	0
<b>F2</b>	307	3
<b>F3</b>	565	3
<b>F4 F50</b> （成人）	49	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	36	0
<b>F6</b> （成人）	24	0
<b>その他</b>	856	0

市立豊中病院は、24 診療科、613 床を擁する急性期病院であり、大学病院を除けば北大阪で最大の総合病院である。国指定地域がん診療連携拠点病院として豊能二次医療圏のがん診療の中核的役割を果たし、地域医療支援病院として豊中市の地域医療を担う存在である。精神科は平成 9 年に開設され、精神科リエゾンチームを中心とした無床精神科として、入院部門ではせん妄予防、緩和ケア、外来部門では地域と連携したもの忘れ外来を主たる業務としている。精神科リエゾンチームの取扱い患者数は日本一であり、病院機能評価では 2 項目の S 評価を獲得している。卒後臨床研修では自院で 1 カ月の精神科研修を行い、大阪大学の医学生の実習も指導している。日本総合病院精神医学会、日本認知症学会、日本緩和医療学会の研修施設である。

地域がん診療拠点病院、地域支援病院の無床精神科であり、基本的に多職種によるチーム医療を行っている。すなわち、入院部門では精神科リエゾンチームによるせん妄予防、緩和ケアチームでのがん患者の精神症状緩和が活動の主体であり、外来部門ではもの忘れ外来を中心として認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師、臨床心理士と協働して認知症のチーム医療を行っている。それぞれのチーム活動の展開として、がん患者のサポートグループ、認知症患者の院内デイケアなどの集団療法も行っており、多彩なチーム医療を習得することができる。

⑥ 施設名：警和会 第二大阪警察病院

- ・施設形態：民間総合病院
- ・院長名：小牟田 清
- ・指導責任者氏名：梅田 寿美代
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 0 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

2019年4月～2020年3月まで第二大阪警察病院

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	50	0
<b>F1</b>	1	0
<b>F2</b>	40	0
<b>F3</b>	651	0
<b>F4 F50</b> （成人）	54	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	0	0
<b>F6</b> （成人）	0	0
その他	0	0

2019年4月～2020年3月までの大阪警察病院(第一)

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	59	0
<b>F1</b>	3	0
<b>F2</b>	13	0
<b>F3</b>	39	0
<b>F4 F50</b> （成人）	45	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	7	0
<b>F6</b> （成人）	9	0
その他	9	0

第二大阪警察病院

・341床の総合病院である。2020年2月～リエゾンチーム回診を新たに開始。4月～認知症ケア加算Ⅱの算定を新たに開始。総合病院精神科の一般リエゾンとして、精神病圏以外に、気分障害圏（うつ病等）、神経症圏（不安障害等）、人格障害圏、器質障害圏（認知症、せん妄等を含む）など、多岐に渡る豊富な精神疾患の診療を経験することが出来る。

認知症については精神科外来で頭部MRI、脳血流シンチ、MIBG心筋シンチ、DATスキャン、脳波等の検査をすることができ、診断から治療にいたるプロセスを学ぶことができる。

・2020年3月末で隣接する大阪警察病院(第一)精神科外来閉科のため第二大阪警察病院から大阪警察病院三次救急リエゾンに協力している。自殺企図等で救命科救急入院となった症例に対し救命科入院中、急性期の身体的治療が終了するまでの間、並行して精神治療を経験することができる。

⑦ 施設名：一般財団法人住友病院

- ・施設形態：民間総合病院
- ・院長名：金倉 謙
- ・指導責任者氏名：池尻義隆
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）：別紙のとおり

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	200	0
<b>F1</b>	5	0
<b>F2</b>	10	0
<b>F3</b>	50	0
<b>F4 F50</b> （成人）	100	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	0	0
<b>F6</b> （成人）	5	0
<b>その他</b>	0	0

住友病院は、大阪市北区中之島にある27診療科、499床の急性期病院である。二次救急および大阪府指定のがん診療拠点病院として大阪市北部の地域医療を担うとともに、臨床研修指定病院として初期臨床研修医教育および各科の後期研修医教育に携わり、また診療科に加えて看護部、薬剤部等の各部署で多くのスタッフが医療系学部学生の臨床実習指導にかかわっている。精神科は日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会、日本認知症学会、日本老年精神医学会の研修施設に指定されており、無床ではあるがコンサルテーションリエゾンで他科病棟を回診し、さまざまな身体疾患を有する患者のせん妄治療、がん緩和ケアチームや認知症ケアチームの一員としてがん患者の治療や認知症を有する患者のケア指導などをおこなっている。また外来では認知症専門外来にて地域の要請に応じている。

住友病院精神科は、いわゆる総合病院の無床精神科であり、扱う疾患としては入院患者におけるせん妄、認知症にともなう行動・心理症状、がん患者にみられる抑うつ、不安が主たる病態であり、さらに外来においては認知症性疾患、高齢者のうつ病、妄想、神経症が多い。おのずと臨床心理士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーら他の職種と協働が必要なことが多く、チーム医療に重点をおいている。

⑧ 施設名：日本生命病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：笠山 宗正
- ・指導責任者氏名：高橋 励
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(0) 床(精神保健福祉法に基づく) (14) 床(医療法に基づき精神科を標榜)
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	826	0
<b>F1</b>	18	0
<b>F2</b>	521	0
<b>F3</b>	796	0
<b>F4 F50 (成人)</b>	623	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	186	0
<b>F6 (成人)</b>	118	0
<b>その他</b>	0	0

日本生命病院の母体である日本生命済生会は大正13年に「済生利民（いのちと生活を大切にし、人の役に立つこと）」を基本理念として設立された。その基本理念をさらに実現するため、昭和6年に日生病院が大阪市西区に開院された。現在の日本生命病院は、350床、27診療科、8診療センターを擁する総合病院である。精神科では成人精神科全般の診療を行っているが、特に脳機能センター・がん治療センターの一部を担い、神経精神医学・認知症学、緩和ケアに力を入れている。入院症例では精神科を標榜する医療法病床にてADLが自立した症例、認知症などの診療を行っているが、他科との連携が活発でありコンサルテーション=リエゾン=サービスに限らず身体疾患と精神疾患の関係を学ぶのに適切な場といえる。その他、慢性疲労症候群、疼痛性障害、その他の身体表現性障害、てんかん、産業精神医学などの分野で専門性を発揮している。

⑨ 施設名：独立行政法人国立病院機構 やまと精神医療センター

- ・施設形態：独立行政法人
- ・院長名：紙野 晃人
- ・指導責任者氏名：紙野 晃人
- ・指導医人数：( 6 ) 人
- ・精神科病床数：(183) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	170	93

<b>F1</b>	13	22
<b>F2</b>	346	164
<b>F3</b>	208	82
<b>F4 F50 (成人)</b>	96	21
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	5	3
<b>F6 (成人)</b>	9	6
<b>その他</b>	180	147

近畿では唯一の国立病院機構に属する単科精神科病院で、昭和41年精神科に転科して以来、重症精神障害の入院治療を使命としてきた。症例は統合失調症が多く、次いで認知症、気分障害、知的障害となっている。結核合併症例に対する病床が特設されており、内科的身体管理は内科医の指導のもとでおこなわれている。平成22年より医療観察法入院病棟を開棟し、近畿全域から症例を受け入れている。強度行動障害を合併する重症心身障害者を対象とした重症心身障害病棟が昭和50年に開設され、平成27年新病棟に移転した。また通園事業も活発で、知的障害者にみられる精神障害および強度行動障害の治療対応を学ぶことができる。一方、昭和57年県下に先駆けてデイケアを開設して社会復帰に努め、平成23年には訪問看護を開始し、長期入院患者の社会復帰を進めてきた。認知症の診療では頭部MRIによるVS-RADの計測もおこなっており、早期診断と治療、さらに地域連携室では施設入所・通院治療を介して地域との連携体制を深めている。大学病院の医学生実習、協力型初期研修プログラム、そして看護師、栄養士、薬剤師の実習を受け入れており、大学院大学では社会人枠として大学院での研究にも実績がある。以上のように、軽症から重症まで幅広く精神障害の診療を経験でき、診療・教育・研究とバランスのとれた専攻医研修ができること、さらに近畿では数少ない医療観察法入院・通院医療機関として司法精神医学を学ぶことに大きな特徴がある。

併設施設：応急指定、精神科救急輪番、強度行動障害を伴う重症心身障害病棟、精神科デイケア、通園施設ほほえみ、医療観察法指定入院・通院機関

⑩ 施設名：独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：西田 俊朗
- ・指導責任者氏名：山森 英長
- ・指導医人数：(3)人
- ・精神科病床数：(0)床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
<b>F0</b>	248	0
<b>F1</b>	10	0
<b>F2</b>	326	0

<b>F3</b>	532	0
<b>F4 F50 (成人)</b>	353	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	20	0
<b>F6 (成人)</b>	2	0
<b>その他</b>	0	0

当院は、35 診療科、565 床の急性期病院で、大阪市の西部基本保健医療圏の地域医療支援病院として、地域医療を担い、また、大阪府がん診療拠点病院として地域におけるがん診療の中核的役割も担っている。現在精神科病床はなく、外来診療、リエゾン診療を行うとともに、チーム医療としては認知症ケアチーム、緩和ケアチームの一員として活動を行っている。外来、リエゾン診療、ともに多彩な疾患、症例を経験することが可能であり、また、緩和ケアチームや認知症ケアチームに参加することでチーム医療を学ぶことができる。

⑪ 施設名：関西労災病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：林 紀夫
- ・指導責任者氏名：梅田 幹人
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	826	0
<b>F1</b>	18	0
<b>F2</b>	521	0
<b>F3</b>	796	0
<b>F4 F50 (成人)</b>	623	0
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	186	0
<b>F6 (成人)</b>	118	0
<b>その他</b>	0	0

関西労災病院は、35 診療科、642 床を擁する急性期病院であります。国指定地域がん診療連携拠点病院として、がん診療の中核的役割を果たし、地域医療支援病院として地域医療を担う存在であります。関西労災病院は、昭和 28 年に開設され、精神科も同時期に開設されました。現在は、無床精神科として、入院部門では、院内リエゾン、せん妄予防、緩和ケアを中心に、診療を行っております。外来部門では、主に成人を対象とした精神科全般の診療を行うとともに、尼崎市や地域と連携した高齢者外来を行っています。日本精神神経学会の研修施設であります。精神科の年間患者総

数は、19,242 人であり、年間の新患患者数は、1,165 人です。また、週に 1 回、睡眠外来を行っており、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群、レム睡眠障害 等の特殊な睡眠障害の診療を行っております。

⑫ 施設名：地独）大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

- ・施設形態：公立単科精神科病院
- ・院長名：岩田 和彦
- ・指導責任者氏名：岩田 和彦
- ・指導医人数：( 13 ) 人
- ・精神科病床数：( 473 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	57	35
<b>F1</b>	170	120
<b>F2</b>	187	688
<b>F3</b>	236	139
<b>F4 F50</b> （成人）	425	95
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	491	121
<b>F6</b> （成人）	54	25
<b>その他</b>	0	0

大阪府の公的精神科単科病院として 90 年の歴史を有し、急性期から社会復帰まで、さらに小児から高齢者まで、様々な精神疾患の診療を担っている。

スーパー救急病棟（40 床）では措置入院を含む多くの非自発的入院症例を経験でき、統合失調症圏や気分障害圏などの急性期治療を学ぶことができる。さらに医療観察法病棟（33 床）、児童思春期病棟（50 床）を有し、司法精神医学や児童思春期精神医学領域の研修も可能である。難治性精神疾患を受け入れ、修正型電気けいれん療法やクロザピン治療を行うとともに、依存症治療拠点医療機関に指定されており、依存症治療にも取り組んでいる。

また保健所や地域生活支援センターなどの地域の関係機関と連携しながら、精神障害をもつ人の退院支援を積極的に行っている。在宅医療室では年間延べ 5000 件以上のアウトリーチ活動を実施しており、慢性期症例の地域生活支援も研修することができる。

⑬ 施設名：公益財団法人 浅香山病院

- ・施設形態：民間総合病院
- ・院長名：太田勝康
- ・指導責任者氏名：釜江 和恵
- ・指導医人数：11人
- ・精神科病床数：804床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	1387	411
<b>F1</b>	48	47
<b>F2</b>	1506	837
<b>F3</b>	938	313
<b>F4 F50</b> （成人）	346	51
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	5	2
<b>F6</b> （成人）	38	12
<b>その他</b>	147	60

許可病床数 1,027 床、そのうち内科、外科などの一般病床が 223 床、精神科病床 804 床の総合病院である。救急医療としては、内科 2 次救急、精神科救急をおこなっている。精神科においては、救急病棟、合併症病棟、認知症病棟、慢性期療養病棟と機能的に分類され、措置入院医療を含む急性期治療全般にわたり幅広く学ぶことができる。臨床心理士による心理テスト、心理療法も行っており、ケースワーカー、看護師など含めた多職種との病棟カンファレンスを通じて、チーム医療を経験できる。難治性統合失調症に対してクロザピン治療を行うことも可能であり、2016 年度より修正型電気けいれん療法、2020 年より rTMS（経頭蓋磁気刺激療法）も施行している。一般科医とも連携し、身体合併症入院治療とともに、院内一般科の入院患者の精神症状に対するコンサルテーション・リエゾンも積極的に行っており、緩和ケア医療の関わりも可能である。司法精神医学においては指導医とともに鑑定現場に行ったり、医療観察法の通院治療を指導医とともに研修することが可能である。画像検査においては、CT、MRI、SPECT、MIBG シンチ、DAT スキャン、エコー検査等が院内の施設で実施することができ、放射線科医の所見により、専門的に学ぶことができる。また、デイケア・ナイトケア、訪問看護ステーション、作業療法、就労支援事業、生活訓練施設なども併設しており、地域生活に密着した診療に積極的に取り組んでいる。医局員による講義、ケースカンファレンスを通して、知識の修得とともに症例への理解を含め、薬物療法、精神療法的関与について学び、学会発表を行うように指導を受ける。

⑭ 施設名：医療法人松柏会 榎坂病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：関山 隆史
- ・指導責任者氏名：青山 泰之
- ・指導医人数：( 6 ) 人
- ・精神科病床数：( 360 ) 床
- ・疾患別外来数・入院数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	1,387	411
<b>F1</b>	48	47
<b>F2</b>	1,506	837
<b>F3</b>	938	313
<b>F4 F50 (成人)</b>	346	51
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	5	2
<b>F6 (成人)</b>	38	12
<b>その他</b>	147	60

阪大病院と同じ吹田市にある唯一の単科精神科病院である。精神科医療は総合病院と単科の精神科病院では扱う対象、特徴が異なっている。精神科医としてそのどちらも学ぶことが必要であり、単科精神科病院ならではの急性期から慢性期までの幅広い入院患者、精神科救急、入院から地域移行への支援、地域に暮らす精神疾患患者の生活を見ることなど地域に密着した精神医療を経験できる。また周辺地域の医療機関との連携、保健所や作業所、グループホームなどとの連携、必要に応じて多職種によるカンファレンス、その中での指導的役割を果たす精神科医師の役割を学ぶことができる。法人として老人施設、児童養護施設を併設しており、老人特有の精神疾患や心理的特性、発達段階に配慮した児童精神医学も学習できる。

⑮ 施設名：医療法人清風会茨木病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：高橋大輔
- ・指導責任者氏名：高橋大輔
- ・指導医人数：( 3 ) 人
- ・精神科病床数：( 340 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	24	43
<b>F1</b>	5	2

<b>F2</b>	796	187
<b>F3</b>	303	90
<b>F4 F50 (成人)</b>	96	7
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	0	0
<b>F6 (成人)</b>	7	1
<b>その他</b>	108	17

茨木病院は許可病床数 340 床を有する。措置入院などの精神運動興奮などの激しい行動を伴う患者の診療を行うとともに、精神科救急医療に輪番として参加している。また精神科急性期治療病棟内に設けられた認知症の治療ユニットで診療にあたっている。デイケアセンター、OTセンター、就労支援センター「オンワーク」、地域活動支援センター「菜の花」、「菜の花」障害者支援センター、訪問看護ステーション「そよかぜ」などで幅広い治療ケア、精神科リハビリテーションを習得することができる。

⑩ 施設名：医療法人社団 澄鈴会 箕面神経サナトリウム

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：清田 吉和
- ・指導責任者氏名：南谷 茂
- ・指導医人数：( 4 )人
- ・精神科病床数：( 329 )床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	16	63
<b>F1</b>	9	5
<b>F2</b>	235	267
<b>F3</b>	190	45
<b>F4 F50 (成人)</b>	83	6
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	0	0
<b>F6 (成人)</b>	4	1
<b>その他</b>	43	7

- ・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

大阪府北部にある民間医療法人単科の精神科病院であり、一般治療病棟 96 床、特殊疾患病棟 53 床、及び療養病棟 180 床を有する中規模病院である。主に、統合失調症、気分障害、認知症、神経症性障害の治療にあたっている。措置入院症例や措置診察の同行体験も出来る。

⑰ 施設名：医療法人清順堂 ためなが温泉病院

- ・施設形態：精神科病院（内科併設）
- ・院長名：八田 直己
- ・指導責任者氏名：八田直己
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(266) 床
- ・2016 年度年間入院数：232 名（うち措置入院 6 名）
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	36	108
<b>F1</b>	10	7
<b>F2</b>	124	84
<b>F3</b>	90	20
<b>F4 F50</b> (成人)	2	3
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	5	10
<b>F6</b> (成人)	0	0
<b>その他</b>	0	0

医療法人清順堂ためなが温泉病院は大阪府箕面市に位置し、昭和 40 年 6 月に設立して 50 年地域に根ざして地域精神科医療を行ってきた病院である。ためなが温泉病院は病床 316 床（精神科 266 床－5 病棟、内科 50 床－1 病棟）の病院であり、併設施設にリハビリテーションセンター（温泉施設有）、作業療法棟、デイナイトケア、グループホーム、ケアホームを有する。近隣に大阪大学附属病院、国立循環器病センター、箕面市立病院などの高度医療施設がある立地の関係で、古くより医師・患者などの交流が盛んである。

当院のある箕面市は大阪北部に位置し、近隣の茨木市、吹田市同様に古くより大阪のベッドタウンとして機能してきた。高度成長期より人口増があり、最近も人口は増加傾向で子供を持つ家族などの人口流入にあるが一方で高度成長期に入植した世代が現在高齢化し認知症を含む老年疾患を発症する時期に達しており、今後も増加が予測される現状では老年医学は必要不可欠と考えられる。それゆえ現在は一般精神科機能に加えて病院機能をより老年期精神疾患を強化すべく様々な対策を実施している。

⑱ 施設名 : 阪和いずみ病院

- ・施設形態： 民間施設
- ・院長名： 湯 久浩
- ・指導責任者氏名： 大西 英周
- ・指導医人数：( 5 ) 人
- ・精神科病床数：( 588 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	90	250
<b>F1</b>	258	252
<b>F2</b>	65	102
<b>F3</b>	78	49
<b>F4 F50 (成人)</b>	24	7
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	31	8
<b>F6 (成人)</b>	2	1
<b>その他</b>	9	0

2018年11月に新築移転した、精神病棟588床、介護療養型病棟90床、計678床の大規模民間単科精神病院である。特色としてアルコール依存症の治療プログラムを持ち、特に女性アルコール依存症治療病棟がある府下でも数少ない病院である。また、認知症の診断・治療にも力を入れており、院内で頭部MRI・CTを受診当日に撮影できるだけでなく、常勤心理士による迅速な心理・知能検査も可能である。当院入院患者の特性として、身体合併症を抱えている患者は多いが、合併症治療病棟を併設し、常勤内科医が3名いるため、身体管理も内科医の指導の下に安心して行うことが出来る。また、精神科対応の血液透析室も併設している。日本精神神経学会、日本老年精神医学会、日本認知症学会の研修施設である。受け入れ患者の特徴としては、年間の入院の大半がアルコール依存症であり、依存形成過程の理解、中毒性精神病や離脱時せん妄の診断・治療、依存にまつわる各種身体疾患の診断・治療及び転送の判断、当院オリジナルテキストを用いた患者教育と行動修正プログラム、薬物に関する法規の理解・運用、自助グループや就労支援施設等の社会資源を運用した社会復帰の促進、等を短期間で十分に学ぶことが出来る。また、当院の所属する医療グループ付属施設において、SPECT、各種シンチ等の各種検査を迅速に施行出来るため、認知症の診断・治療にも十分な経験を積むことが出来る。

⑱ 連携施設名：和泉丘病院

- ・院長名： 尾崎 哲
- ・指導責任者氏名： 尾崎 哲
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 257 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	105	135
<b>F1</b>	95	35
<b>F2</b>	125	174
<b>F3</b>	98	29
<b>F4 F50</b> (成人)	48	12
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	0	0
<b>F6</b> (成人)	0	0
<b>その他</b>	0	0

和泉丘病院は、泉州地域の豊かな自然環境下にある精神科専門病院である。療養病床を中心としており、長年にわたり地域医療に貢献している。病床数は257で、閉鎖男子病棟60床、同女子病棟51床、同男女混合病棟40床、開放男女混合病棟48床、認知症治療病棟58床で構成されている。疾患の内訳としては統合失調症(45%)、認知症が(37%)が主な疾患である。大阪府精神科救急システムの協力病院でもあり、拠点病院からの後送患者の受け入れ、加療、地域への復帰を目指している。退院後も、ディナイトケア、グループホーム、サテライト診療所により地域社会へのスムーズな復帰を支援している。当院は精神保健福祉法の理念の「入院医療中心から地域生活中心へ」を目指している。超高齢社会を迎え、認知症患者数が大きな社会問題となっているが、認知症治療病棟においても近隣施設と密接な連携を取り、BPSDなど薬物療法・機能回復訓練により加療し、早期の＜退院・施設への復帰＞が重要と考えている。

⑳施設名： 大阪さやま病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：阪本 栄
- ・指導責任者氏名：上田 敏朗
- ・指導医人数：( 2 ) 人
- ・精神科病床数：( 279 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	361	85

<b>F1</b>	19	15
<b>F2</b>	231	76
<b>F3</b>	398	152
<b>F4 F50 (成人)</b>	71	14
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	73	4
<b>F6 (成人)</b>	3	3
<b>その他</b>	0	0

当院は大阪府から認知症疾患センターの指定を受け、南河内医療圏の認知症診療の中核病院として相談、鑑別診断、BPSD などに対する入院治療、地域の認知症に係る医療・福祉・行政機関等に対する研修事業等を行っています。認知症専門外来は、2人の日本認知症学会の専門医が担当し、CT及びMRIの画像検査、心理士による心理検査などは院内で実施可能でSPECT、PET検査については必要に応じ近畿大学医学部附属病院放射線部に依頼しています。平成28年4月には日本認知症学会教育施設としての認定を受けました。病棟は認知症専門病棟、うつ病患者を中心に受け入れているストレスケア病棟を備え、認知症、うつ病に特化した専門病棟を運営しています。更に介護老人保健施設、在宅介護支援センター、認知症対応のグループホームを併設しており、認知症患者の医療、介護を含めた、多角的な対応が可能となっています。また、大阪府の精神科指定医療機関として措置診察及び措置患者の入院医療も行っており、地域に根ざした精神科医療を心掛けています。

② 施設名：社会福祉法人天心会 小阪病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：東 司
- ・指導責任者氏名：斎藤 真喜子
- ・指導医人数：( 9 ) 人
- ・精神科病床数：( 537 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	455	283
<b>F1</b>	70	18
<b>F2</b>	1176	467
<b>F3</b>	929	255
<b>F4 F50 (成人)</b>	407	42
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	393	54
<b>F6 (成人)</b>	42	8
<b>その他</b>	157	16

537床の単科精神科病院であり、急性期治療病棟、認知症治療病棟、精神科一般病棟、精神科療養病棟等を有し、多様な精神障害の救急、急性期から慢性期、社会復帰までの診療を経験できる。また、同一法人内にデイケアセンター、訪問看護ステーション、地域生活支援センター、救護施設、グループホーム、特別養護老人ホーム等を有しており、他職種によるチームのリーダーとして活動することにより、退院後の精神科リハビリやアウトリーチ等について、幅広く学べる。

② 施設名：医療法人養心会国分病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：木下秀夫
- ・指導責任者氏名：木下清二郎
- ・指導医人数：(4)人
- ・精神科病床数：(201)床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	168	59
<b>F1</b>	92	48
<b>F2</b>	1308	323
<b>F3</b>	198	16
<b>F4 F50</b> （成人）	73	11
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> （児童・思春期）	35	61
<b>F6</b> （成人）	72	21
<b>その他</b>	0	0

大阪府精神科救急情報センターを介しての、精神科救急受け入れを週に3～4日行っており、精神科急性期治療について幅広く対応可能な体制です。また、医療観察法における鑑定入院も受け入れており、触法精神障害者の司法的な関わりについても学ぶことができる。

②③ 施設名：好寿会 美原病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：本西 正道
- ・指導責任者氏名：本西 正道
- ・指導医人数：(12) 人
- ・精神科病床数：( 452 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	762	48
<b>F1</b>	173	8
<b>F2</b>	8,645	137
<b>F3</b>	1,216	40
<b>F4 F50 (成人)</b>	542	15
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	580	25
<b>F6 (成人)</b>	36	5
<b>その他</b>	93	0

当院は精神科急性期治療病棟、精神科一般病棟、認知症治療病棟、精神療養病棟を有しており、統合失調症、双極性障害、うつ病の症例が豊富。新規の入院では認知症周辺症状の症例も多く、単科精神科病院における基本的な疾患について急性期から慢性期まで幅広く経験することができる。精神科救急については大阪府の救急後送システムに参画して救急症例の受入れを行っており、措置入院の症例も多く、精神保健指定医の取得が可能である。加えて常勤内科医2名、非常勤外科医1名が勤務しており、身体的合併症を有する症例にもある程度対応している。作業療法やデイナイトケアを実施しているのに加え、関連施設として訪問看護ステーション、老人保健施設、救護施設、グループホームを有しており、それらとの連携に関しても経験することができる。

②④ 施設名：医療法人 河崎会 水間病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：河崎 建人
- ・指導責任者氏名：河崎 建人
- ・指導医人数：( 7 ) 人
- ・精神科病床数：( 541 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	153	273
<b>F1</b>	123	49

<b>F2</b>	13	41
<b>F3</b>	226	288
<b>F4 F50 (成人)</b>	25	27
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	54	4
<b>F6 (成人)</b>	3	4
<b>その他</b>	68	8

水間病院は、昭和34年8月の創設以来、大阪府南部の地域精神科医療の中心的役割を担い、地域のニーズに応えるべく、急性期から慢性期まで、精神一般病棟・精神療養病棟・認知症治療病棟において、幅広く精神疾患の治療に取り組んでおり、精神科救急にも参画している。

高齢化社会にともなう認知症疾患対策にも積極的に取り組み、大阪府認知症疾患医療センターとして、認知症の専門医療相談・鑑別診断・治療方針選定等も行っており、関連施設の介護老人保健施設・介護老人福祉施設等での研修も可能である。

社会復帰については、グループホーム・支援センター・共同住居等の事業も行っており、社会復帰促進にも力を注いでいる。さらに精神科病院としては、全国的にも数少ないと思われるが、理学療法士が多数在籍している医療機関として積極的にリハビリテーションにも取り組んでいる。その他に当グループでは、河崎会看護専門学校・大阪河崎リハビリテーション大学を有し、基本の理念に医療従事者を積極的に育成する姿勢が根付いている。

②⑤ 施設名： 医療法人 敬寿会 吉村病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：高橋 清武
- ・指導責任者氏名：伊藤 皇一
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(222) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	86	32
<b>F1</b>	19	15
<b>F2</b>	509	199
<b>F3</b>	382	132
<b>F4 F50 (成人)</b>	203	40
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	26	18
<b>F6 (成人)</b>	13	2
<b>その他</b>	28	0

吉村病院は、大阪府下 50 番目の精神科病院として昭和 51 年に松原市に開院した。精神科急性期治療病棟と精神科一般病棟、精神科療養病棟からなる 222 床を有する。関連施設として同市と大阪市平野区にサテライト診療所 2 か所、訪問看護ステーション 3 ヶ所、精神のグループホーム 1 か所を有し、関係機関との密な連携のもとに地域医療に貢献している。急性期から慢性期まで幅広い精神疾患の入院を受け入れており、近年増加しつつある認知症疾患に対しては急性期治療病棟内に設けられた治療ユニットで阪大からの派遣内科医と連携し多角的な治療を行っている。ケースカンファレンスなどをおとして、看護師や精神保健福祉士、作業療法士、公認心理士、聴覚言語療法士など多職種とのチーム医療が活発になされている。

大阪府の精神科救急医療システムの協力病院であり、精神科救急および入院から地域移行への支援、地域医療など幅広く経験ができる。精神科指定医療機関として措置診察及び措置患者の入院医療も行っており、また、医療観察法の指定通院医療機関でもあるため、触法精神障害者の司法的な関わりについても学ぶことができる。

②⑥ 施設名： 七山病院

- ・施設形態：単科精神科病院(私立)
- ・院長名： 本多 義治
- ・指導責任者氏名：本多 義治
- ・指導医人数：( 3 ) 人
- ・精神科病床数：( 613 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	169	147
<b>F1</b>	88	88
<b>F2</b>	511	233
<b>F3</b>	361	139
<b>F4 F50 (成人)</b>	176	28
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	40	16
<b>F6 (成人)</b>	18	17
<b>その他</b>	131	13

七山病院は精神科救急・精神科救急入院料病棟を 1 つ有し、積極的に救急を受け入れている。思春期から老壮年期にかかる全ての精神科疾患に対応しており、認知症治療病棟は 2 つ、合併症病棟は 1 つ、さらに慢性期病棟、亜急性期病棟等を保有している。医療観察法の指定通院医療機関であり、措置入院 (年間 20 件以上) も積極的に受け入れている。クロザリルによる治療抵抗性統合失調の治療も行っている (CPMS 登録医療機関)。さらに、関連施設としてサテライトクリニック 2 ヶ所、精神のグループホーム 3 ヶ所、および老健、訪問看護ステーションを有している。専門外来としては、物忘れ外来と児童思春期外来を開いている。そして、精神科リハビリ部門として、精神

科作業療法、デイケア・デイナイトケアを実施している。

- ⑳ 施設名： 仁明会病院
- ・施設形態：単科精神科病院
  - ・院長名： 森村 安史
  - ・指導責任者氏名：森村 安史
  - ・指導医人数：( 5 ) 人
  - ・精神科病床数：( 310 ) 床
  - ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間) サテライトクリニック含	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	355	241
<b>F1</b>	11	4
<b>F2</b>	453	188
<b>F3</b>	393	105
<b>F4 F50 (成人)</b>	281	14
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	5	0
<b>F6 (成人)</b>	8	0
<b>その他</b>	0	0

当院（兵庫県西宮市）は、風光明媚な甲山の麓に位置する単科精神科病院であり、市街地だけでなく、周辺地域からのアクセスも良好です。勤務する医師も、ベテラン、中堅、若手、男女の比率が非常によく、先輩医師の経験など多様なアドバイスを受けることが可能です。重度認知症デイケアを併設し、青年期から老年期まで、多岐にわたる疾患を対象とし、統合失調症圏、気分障害圏、認知症など、急性期治療病棟を中心とした入院精神科医療全般を学ぶことが出来ます。応急入院や措置入院なども随時引き受けており、精神保健指定医の取得についてもサポートできる環境であり、難治性の統合失調症に対してのクロザリル療法なども経験出来ます。また、老年精神医学会の研修施設にもなっているため、老年精神医学会専門医の取得も可能です。身体合併症においては、内科医と協力して治療を行い、難渋する症例については、西宮市内などの総合病院などと連携を行っています。病院の関連施設として仁明会地域精神医療センターを西宮市内に有し、認知症疾患医療センターやクリニック、精神衛生研究所、通所デイケア、訪問看護ステーションが開設されており、仁明会病院と連携し、地域移行支援や地域精神医療を学ぶことも可能です。

⑳ 施設名： 東加古川病院

- ・施設形態： 民間病院
- ・院長名： 森 隆志
- ・指導責任者氏名：森 隆志
- ・指導医人数：( 4 ) 人
- ・精神科病床数：( 425 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	427	150
<b>F1</b>	152	60
<b>F2</b>	702	274
<b>F3</b>	459	63
<b>F4 F50 (成人)</b>	430	37
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	101	3
<b>F6 (成人)</b>	19	8
<b>その他</b>	0	0

達磨会東加古川病院は兵庫県加古川市に位置し、昭和12年(1937年)に設立して75年以上地域に根ざし、地域精神科医療に携わってきた病院である。東加古川病院は病床425床の精神科単科病院であり、附属施設に老人保健施設緑寿苑(100床)、こもれび心療クリニック(デイケア付診療所：兵庫県加古川市)を有する。関連施設としては法人は別法人で社会福祉法人となるが、障がい者自立支援センター「てらだ」を有する。また一方で時代の変遷に伴い平成16年(2004年)には病院の施設認定としてISO 9001(現在は附属の老人保健施設も認定)を取得した。

また医師の教育にも力を入れており、平成16年(2004年)より厚生労働省臨床研修指定病院としては主に協力型(精神科)として県立加古川医療センター・甲南医療センター・加古川中央市民病院より研修医を受け入れており、平成18年(2006年)より日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定を受けて精神科専門医養成にも取り組んでいる。また、臨床研究にも漸次参加しており、平成21-23年度厚生労働科学研究費補助金認知症対策総合研究事業平成21-23年度厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業／認知症対策総合研究事業「認知症の行動心理症状に対する原因疾患別の治療マニュアルと連携 クリニカルパス作成に関する研究(研究代表者：数井裕光)」に参加し、症例収集および解析を行っている。このように臨床研究を含めて総合的に精神科医療に取り組んでおり、今後も病院の機能を発展させ医師を含めた医療スタッフの研鑽にも精神神経学会専門医制度を活用したいと考えている。

②⑨ 施設名：伊丹天神川病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：上山 貴史
- ・指導責任者氏名：熊ノ郷 卓之
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 232 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	31	16
<b>F1</b>	37	18
<b>F2</b>	458	276
<b>F3</b>	401	79
<b>F4 F50 (成人)</b>	210	7
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	6	0
<b>F6 (成人)</b>	7	1
<b>その他</b>	351	36

伊丹天神川病院は、兵庫県伊丹市にある 267 床の精神科病院であり、その内、精神科病床 232 床 (隔離室 12 床含む)、内科療養病床 35 床を有している。当院は住宅地内に立地しているため比較的通院しやすい環境にあり、外来から入院、または入院から外来まで一貫して一人の患者様を支援することができることが特徴で、地域に密着した医療を提供している。また、内科療養病棟を有しており、身体合併症治療などの経験ができる。疾患としては統合失調症 (F2)、気分障害 (F3)、神経症性障害 (F4) などが主体となっている。

チーム医療の一環として、精神保健福祉士、臨床心理士と連携し家族教室やストレスセミナーを開催するなど、他職種と協力し患者様の疾患への理解や地域生活を支援している。また、臨床心理士と作業療法士が協力し、入院患者様を対象として「モーニングカフェ」を開き、患者様同士の交流の場を広げることで社会復帰への支援も行っている。本年度からの取り組みとして、精神保健福祉法に則り行動制限の最小化を目指し、医師、看護師が主体となり行動制限ラウンドを行い行動制限の早期解除に向けて、積極的に取り組んでいる。

地域連携としては、近隣病院からの往診依頼に対応しており、身体科病院との関りも多く地域での精神科リエゾンとしての役割を担っている。

臨床研修施設として、市立伊丹病院、関西ろうさい病院、近畿中央病院より初期研修医を年間 25 名ほど受け入れており、常に若い医師と活発な意見交換を行っている。

③〇 施設名： 砂川市立病院

- ・施設形態：公立総合病院
- ・院長名： 田口宏一
- ・指導責任者氏名：内海 久美子
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 80 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	5,256	1,302
<b>F1</b>	12	49
<b>F2</b>	4,200	510
<b>F3</b>	5,580	863
<b>F4 F50 (成人)</b>	2,808	608
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	1,460	95
<b>F6 (成人)</b>	684	1
<b>その他</b>	1,560	0

【地域の概要】

本市は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、東は夕張山系の丘陵地帯を境に赤平市、歌志内市、上砂川町に接し、西は石狩川を挟んで新十津川町に、北は空知川を挟んで滝川市に、そして、南は奈井江町に接しています。その市域は、東西に約 10.5 キロメートル、南北に約 12.7 キロメートル、総面積は 78.68 平方キロメートルで、市街中心部は、平地地帯と石狩川の間南北に細長く展開し、中央を国道 12 号のほか、道央自動車道と JR 函館本線がそれぞれ縦貫しています。

【当院の概要】

当院は地域の基幹病院・救急救命センター・がん診療拠点病院・災害拠点病院・認知症疾患医療センター・老年精神医学専門医研修施設であり、27 診療科からなる総合病院です。全病床数は 498 床で、そのうち精神科病床は 80 床。その内訳は高齢者病棟 40 床、急性期治療病棟（閉鎖病床 20 床、開放病床 20 床）からなり、精神科救急から身体合併症の対応まで、幅広く研修できる施設です。

精神科病棟には、3 床の精神科 ICU が設置され、院内外からの重篤な身体合併症をもった患者を受け入れ他科医師との連携によって治療をおこない、精神疾患のみならず身体合併症についても研修できるシステムとなっています。

また認知症疾患医療センター指定医療機関として、当科の新患数は毎年 800 名前後の 6 割は認知症疾患で占められており、多くの認知症診断・治療を経験できます。認知症ケアチームおよびリエゾンチームが稼働しています。またがん拠点病院であるため、緩和ケアチームによる活動にも参加できます。

【研修の内容】

研修内容として、初期研修で習得した精神症状に対する知識・診療技術を生かし、更に幅広い臨床経験を積み、精神保健福祉法が定める指定医や、精神医学学会指導医および老年精神医学会指導医の下、精神保健指定医・精神医学会専門医・老年精神医学会専門医の取得を目指します。

新患担当日は週に1回で、3人の新患を診ます。再診担当日は週に2回で、日に40～50名を担当します。入院患者は、約20名前後担当します。

週に1回、ドクターカンファレンスで指導医からのスーパーバイズを受け、診断・治療方針の指導を受けます。

入院患者についての多職種カンファレンスは、週に2回開催してチーム医療を体験します。

また当院では週に1回、精神科・神経内科・脳外科の3科が協働診療するもの忘れ専門外来を開設しており、その診察も担当してもらい、症例については、3科のドクターとコメディカルスタッフが参加するもの忘れ外来カンファレンスで、症例のプレゼンテーションや他科ドクターやコメディカルスタッフの意見を聞くことは、診療技術を身につけるのには絶好の機会となっています。

また地域活動としては、“NPO法人 中空知地域で認知症を支える会”の一員として研修会や講演会に参加し、地域かかりつけ医・ケアスタッフとの連携を肌で体験していけるシステムになっています。

③① 施設名：高知大学医学部附属病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：執印 太郎
- ・指導責任者氏名：上村 直人
- ・指導医人数：( 8 ) 人
- ・精神科病床数：( 30 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
<b>F0</b>	277	28
<b>F1</b>	15	3
<b>F2</b>	278	48
<b>F3</b>	503	16
<b>F4 F50 (成人)</b>	439	36
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b> (児童・思春期)	291	8
<b>F6 (成人)</b>	17	1
<b>その他</b>	0	0

当院は613床を有する大規模な病院であり、精神科は30床です。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症 (F2)、気分障害 (F3)、神経症性障害 (F4) などの治療にあたっている。また思春期症例、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴です。特にがん患者の心理社会的問題につい

ては、全国トップクラスのがん診療連携拠点病院との合同症例検討会に定期的に参加することで、より深いレベルで多様な経験を積むことが可能です。難治性のうつ病に対する電気けいれん療法も積極的に取り組んでおり、高知工科大学との基礎的・臨床的研究にも取り組んでいます。また、精神療法の習得にも力を注いでおり、認知行動療法、精神分析・精神力動のカンファレンス、セミナーを定期的を開催しています。その他には発達障害の診断・療育を専門とするこどものこころ診療部を精神科と小児科と合同で取り組んでおり、世界的にも著明なイエテボリ大学児童精神科、クリストファー・ギルバーグ教授の支援を受けた高知ギルバーグセンターとの共同研究にも取り組んでいます。地域医療への貢献としては高知県から認知症疾患医療センターの委託を受け、認知症に対する診断、治療、ケアなどの普及啓発活動も行っています。その他、基幹型で習得しにくい措置症例や精神科救急、医療観察法に関する精神科医療は連携施設と協力して経験ができるなど高知大学はほぼ高知県内すべての精神科医療機関と連携をしているため、きめ細やかで、急性期から慢性期にまで至る長い視点での精神科医療やその際に必要な技量を学べる場所であると言えます。また最先端の知識を獲得するため、全国の一流の研究者を招聘し、定期的に講義を開催し学習機会を既に 20 年近く確保しており、専門医になつてからの活躍の場を広げることができる研修環境であることも特徴です。

病院ホームページ URL : <http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/>

精神科ホームページ URL : [http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm\\_nrpsy/index.htm](http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm_nrpsy/index.htm)

### 3. 研修プログラム

#### 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域（研修手帳に準拠）の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。年次毎の到達目標は以下の通りである。

#### 到達目標

1年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害（特に認知症）の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を幅広く経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつける基本的な作法を身につけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。基幹病院では専攻医向けの以下のクルズス（教育講習）が設けられているので、これに参加して必須知識を習得する。

I	患者および家族との面接	病歴と症状評価
III	診断と治療計画（1）	診断分類
III	診断と治療計画（2）	自傷他害と入院の必要性
IV	補助検査法	CT、MRIの読影と判読 脳脊髄液検査の施行、結果の判読 脳波検査及び判読 心理検査の依頼と実施・判読
V	薬物・身体療法	
VI	精神療法（1）	
VI	精神療法（2）	
VII	心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉	
VIII	精神科救急	
IX	リエゾン・コンサルテーション精神医学	
X	法と精神医学	
XI	医の倫理	

なお、近畿精神神経学会での症例発表を行っていただく。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的精神医学の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。都合失調症、気分障害、認知症にとどまらず、神経症性障害、摂食障害など様々な精神科疾患の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。近畿精神神経学会での症例発表を奨励し、さらに他の学会での発表・討論も奨励する。

3年目：指導医から自立して診療できるように努力していただくことと、各専攻医の志向に依拠した方

向性を確立していただく。連携病院は後述のように専門性の高い基幹施設が存在するので、幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知症の画像診断、認知症の神経心理学的評価とバイオマーカーによる鑑別、BPSD への対応、統合失調症の病状評価と治療、うつ病の病状評価と社会心理学的理解、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を充分学習する。近畿精神神経学会での症例発表を奨励し、さらに他の学会での発表・討論も奨励する。

## 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」、「研修記録簿」を参照のこと。

### 3) 個別項目について

#### ① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

#### ② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、近畿精神神経学会などでの発表を進める。

#### ③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例プレゼンテーション技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。これに関しては、「医の倫理」のクルズスの中で、現在もそうであるが過去には精神病患者が社会的にきわめて弱者であった歴史を理解する中で、病んだ者には対峙する医師の行動規範を考えていただく。

#### ④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。基幹病院(大学)では神経化学グループ、神経心理グループ、認知精神生理グループ、脳波睡眠グループ、精神病理グループ、と各専門の研究グループが存在するので、各グループより必要に応じて指導を受けて、学術的成果を上げられるように努力する。

## 4) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院Aをローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2-3年目には総合病院精神科(B①~⑪)、単科精神科病院(B⑫~⑳)を各1年ずつローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする

治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。特に今回記載した連携施設の中では、児童専門機関（②大阪市総合医療センター、⑫大阪府立精神医療センター（松心園）、司法精神医学専門機関（⑬大阪府立精神医療センター、⑨やまと精神医療センター（医療観察法入院・通院病院）、認知症専門機関（⑬浅香山病院（認知症センター（地域型））、⑳大阪さやま病院（認知症センター（地域型））、㉑水間病院（認知症センター（地域型））、アルコール専門機関（⑱阪和いずみ病院）との連携が行われているので、専攻医の希望により各々の専門性の高い研修を受けることが可能となっている。場合により半年単位での研修も想定しており、その場合、1・2年目に基本となる基幹病院Aと総合病院B(B①～⑩)を1年ずつ研修した後に、残り1年（場合により3年まで延長）を、上述の専門機関の中から本人の志向にあわせて半年から1年単位でローテーションすることも可能である。さらにリサーチ志向の高い専攻医に対しては、1年の研修の後に大学院入学というパターンも可能である。主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

#### 5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照。

#### 4. プログラム管理体制について

##### ・プログラム管理委員会

一委員長 医師：池田 学

一医師：工藤 喬

一医師：橋本 衛

一医師：森原 剛史

一医師：岩瀬 真生

一医師：吉山 顕次

一医師：田上 真次

一医師：藤本 美智子

一医師：間宮 由真

一医師：金井 講治

一医師：三好 紀子

一医師：森 康治

一看護師：岡野 照美

一精神保健福祉士：宮脇 英子

一医師：松永 秀典

一医師：飯田 信也

一医師：田宮 裕子

一医師：辻尾 一郎

一医師：橋本 千穂

一医師：梅田 寿美代

一医師：池尻 義隆

一医師：高橋 励  
一医師：紙野 晃人  
一医師：山森 英長  
一医師：梅田 幹人  
一医師：岩田 和彦  
一医師：谷口 典男  
一医師：青山 泰之  
一医師：高橋 大輔  
一医師：南谷 茂  
一医師：八田 直己  
一医師：大西 英周  
一医師：尾崎 哲  
一医師：上田 敏朗  
一医師：斎藤 真喜子  
一医師：木下 清二郎  
一医師：本西 正道  
一医師：河崎 建人  
一医師：伊藤 皇一  
一医師：本多 義治  
一医師：森村 安史  
一医師：森 隆志  
一医師：熊ノ郷 卓之  
一医師：内海 久美子  
一医師：上村 直人

・プログラム統括責任者  
池田 学

連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

## 5. 評価について

### 1) 評価体制

大阪大学医学部附属病院：田上 真次  
大阪急性期・総合医療センター：松永 秀典  
大阪府立精神医療センター：岩田 和彦  
大阪市立総合医療センター：飯田 信也  
浅香山病院：谷口 典男  
清風会茨木病院：高橋 大輔

## 2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ 6 ヶ月毎に評価し、フィードバックする。
- ・ 1 年後に 1 年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿システムを用いる。

## 3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行う。

大阪大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

### ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に 1 回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行う。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

### ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年 1 回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

### 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

### 2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

### 3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

### 4) FD の計画・実施

年 1 回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。



### 別紙1 ローテーションの例

基幹病院、総合病院、単科精神病院を軸に、専攻医のニーズに応じて多様な研修が可能である。専門性の高い経験をさまざまに積むために半年程度のローテーションも考慮する。希望があれば大学院に進むこともできる。

別紙2

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。  
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

A 研修基幹施設

大阪大学医学部附属病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	病棟業務 mECT	病棟業務	外来業務 (平日のいずれか 週1回)	病棟業務 mECT	
午後	病棟業務  14:00 ケースカンファレンス  15:30 病棟回診	病棟業務  14:00 リエゾン回診	病棟業務	病棟業務  週間サマリー 作成	13:30 リエゾン回診	
夜	論文抄読 (psychiatry salon)				宿直 (平日のいずれか 月2回)	

年間スケジュール

4月	オリエンテーション	
5月		
6月	精神医学講義 月曜日17:00-17:45 火曜日10:00-11:30 金曜日10:00-11:30	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会 参加 (任意) 和風会精神医学研究会参加
7月		近畿精神神経学会参加 夏季休暇取得可能期間 (7月~9月)
8月		
9月		和風会講演会参加
10月		
11月		和風会総会 (特別講演) 参加
12月		
1月		
2月		近畿精神神経学会参加
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成	和風会講演会参加

B 研修連携施設

① 施設名：大阪急性期・総合医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務 mECT	病棟業務 緊急当番	病棟業務 mECT	病棟業務	病棟業務 mECT	
昼		入院カンファレンス	勉強会			
午後	病棟業務 リエゾン 看護師との ケースカンファレンス	病棟業務 緊急当番	病棟業務	病棟業務 リエゾン	病棟業務 看護師との ケースカンファレンス	
17時以降					宿直：月2回	休日の日直+オン コール：月1~2回

年間スケジュール

4月		
5月		大阪総合病院精神医学研究会参加
6月		日本精神神経学会学術総会参加
7月	緩和ケア研修会参加	近畿精神神経学会参加 有床総合病院精神科フォーラム参加
8月		
9月		
10月		日本精神科救急学会学術総会参加
11月		日本総合病院精神医学会参加
12月		
1月		
2月		近畿精神神経学会参加
3月		

B 研修連携施設

② 施設名：大阪市立総合医療センター

週間スケジュール

<精神神経科>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:45~12:15	病棟業務、mECT補助業務（火曜・金曜）、外来業務（週1.5回程度）、リエゾン・コンサルテーション初診業務(週2回程度)				
13:00~13:30	リエゾン・コンサルテーション カンファレンス				
13:30~16:00	病棟および リエゾン・コンサルテーション業務				
16:00~17:15		緩和医療カンファレンス			入院・リエゾンカンファレンス
17:15~18:00	第3木曜日：合同医局会 その他 適宜 勉強会				

<児童青年精神科>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00-12:00	初診外来陪席または多職種カンファレンス			9:30-10:30 児精医局会 ミニCC 病棟患者診療	初診外来陪席 または 多職種カンファレンス
13:00-14:30	病棟患者診療				
14:30-15:30	集団療法 (園芸)	14:00-16:00 心理検査	集団療法 (自治会)	病棟SST または 母親面談	SST (病棟レク)
15:30-17:15	病棟患者診療				
その他 ・出張等 ・外来ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ・C.C.		第1,3週午後 大阪市 児童相談所	11:00-12:00 リエゾン・ラウンド	14:30-16:00 外来SST (小学4-6年)	第3週 17:30-20:00 児精事例検討会 (参加任意)

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 専攻医1：研修開始 専攻医2、3：前年度研修報告書提出 指導医研修実績報告提出
5月	大阪総合病院精神科研究会（開催時期不定） 参加
6月	日本精神神経学会学術総会 参加 日本老年精神医学会 参加（任意）
7月	日本総合病院精神医学会有床総合病院精神科フォーラム 参加（任意） 近畿精神神経学会 参加 日本うつ病学会学術総会 参加（任意） 夏季休暇取得可能期間（7月～9月）
8月	全国自治体病院協議会精神特別部会 参加（任意）
9月	
10月	日本精神科救急学会学術総会 参加（任意） 日本児童青年精神医学会 参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会 参加（任意） 大阪総合病院精神科研究会（開催時期不定） 参加
12月	年末年始病院休業期間（12月29日～1月3日）
1月	近畿精神神経学会 参加 全国児童青年精神科医療施設協議会 参加（任意）
2月	日本不安症学会学術大会 参加（任意）
3月	日本統合失調症学会学術総会 参加（任意） 研修プログラム評価報告書の作成 専攻医1,2,3：研修報告書作成

## B 研修連携施設

③施設： 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（大阪医療センター）

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来（コンサルテーション）/病棟業務	外来（コンサルテーション）/病棟業務	外来（コンサルテーション）/病棟業務	病棟往診/緩和ケアチームカンファレンス・回診/	外来（コンサルテーション）/病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務/脳波勉強会	医局会/症例検討会	病棟業務	病棟業務

夜間：当直なし 精神科病棟番：月数回

### 年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	大阪総合病院精神医学研究会学術総会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本総合病院精神医学会無床フォーラム参加 日本緩和医療学会総会参加（任意）
7月	日本総合病院精神医学会有床フォーラム参加（任意）
9月	日本サイコオンコロジー学会参加（任意）
10月	日本児童青年精神医学会学術総会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

④ 施設名 : 箕面市立病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	リエゾン	外来	外来	外来
午後	リエゾン	緩和ケア カンファ	外来	外来	リエゾン カンファ
夕方		外来患者 カンファ	リエゾン	リエゾン	外来・病棟患者 カンファ

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	精神神経学会総会参加 日本緩和ケア学会参加 和風会学術研究会参加
7月	北摂緩和研究会参加 大阪緩和フォーラム参加
8月	
9月	
10月	
11月	地方精神神経学会参加 日本認知症学会参加
12月	日本総合病院精神医学学会参加
1月	日本総合病院精神医学学会総会参加
2月	大阪緩和フォーラム参加
3月	

B 研修連携施設

⑤ 施設名：市立豊中病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
午前	回診	外来（初診）	外来（再診）	もの忘れ外来	回診
午後	病棟往診 緩和ケアチーム カンファレンス	病棟往診	病棟往診	院内デイケア	回診
夕方			症例検討会	医局会	

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	大阪総合病院精神医学研究会学術総会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本総合病院精神医学会無床フォーラム参加 日本緩和医療学会総会参加（任意）
7月	日本総合病院精神医学会有床フォーラム参加（任意）
8月	夏季休暇
9月	日本サイコオンコロジー学会参加（任意）
10月	研修中間評価 日本児童青年精神医学会学術総会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加
12月	日本認知症学会学術総会参加（任意）
1月	市立豊中病院医学雑誌投稿
2月	
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

⑥ 施設名：第二大阪警察病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8：30～9：00	・カンファレンス				
午前9：00～	・第二認知症診断外来 ・第一三次救急リエゾン協力	・第二リエゾン外来+リエゾンチーム回診 ・第一三次救急リエゾン協力	・第一三次救急リエゾン協力	・第二リエゾン外来 ・第一三次救急リエゾン協力	・第一三次救急リエゾン協力
午後5：00まで	・第二認知症ケア加算Ⅱカンファレンス	・第二緩和ケアチーム回診		・第一認知症ケア加算Ⅰ認知症チーム回診協力	

年間スケジュール

4月	オリエンテーション、クラス
5月	クラス
6月	日本精神神経学会、和風会学術講演会
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	総合病院精神医学会、日本認知症学会
12月	
1月	
2月	
3月	研修のまとめ

## B 研修連携施設

⑦ 施設名：一般財団法人住友病院

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
午前	外来（初再診）	病棟往診	病棟往診	外来（初再診）	外来（初再診）
午後	せん妄・認知症カンファレンス・回診	病棟往診	せん妄・認知症カンファレンス・回診	緩和ケアカンファレンス・回診、病棟往診	外来（初再診）
夕方				症例検討会	

### 年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	大阪総合病院精神医学研究会学術総会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会総会参加（任意） 日本緩和医療学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加（任意）
10月	研修中間評価
11月	日本総合病院精神医学会総会参加
12月	日本認知症学会学術総会参加（任意）
1月	
2月	近畿精神神経学会参加・発表
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

⑧ 施設名：日本生命病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン
夕方		カンファ			カンファ

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	総合病院精神医学会
12月	
1月	
2月	
3月	研修のまとめ

B 研修連携施設

⑨ 施設名：やまと精神医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	デイケア診察	外来陪席	デイケア診察	外来陪席	デイケア診察
午後	病棟業務	自己学習	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16時30分以降	ケースカンファレンス (第4月曜)		症例検討会	医局会議 (第2木曜) 画像検討会 (第3木曜)	当直 (月2回)
デイケア診察は月～金の隔日。					

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	奈良認知症研究会参加
8月	奈良県医師会精神神経科部会参加
9月	
10月	国立病院医学会参加
11月	
12月	
1月	
2月	精神科研究会「らぼーるび集い」参加
3月	奈良不安・抑うつ臨床研究会参加
その他	医師会が開催する「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の各研修に参加する。希望により、研修に参加を許可する。

B 研修連携施設

⑩ 施設名：独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
午後	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン 緩和ケアチーム カンファ・回診	リエゾン 認知症ケアチーム カンファ・回診
夕方	症例検討会	症例検討会 外来カンファ	症例検討会	症例検討会	症例検討会

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会学術総会参加（任意） 日本総合病院精神医学会無床フォーラム参加（任意） 日本緩和医療学会総会参加（任意）
7月	日本総合病院精神医学会有床フォーラム参加（任意）
8月	
9月	
10月	日本サイコオンコロジー学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会学術総会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加 日本認知症学会学術総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	研修総括評価

※ 上記いずれかの学会にて演題発表を行う。

## B 研修連携施設

### ⑪ 施設名：関西労災病院

#### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
夕方				心療内科・精神科の勉強会、 カンファレンス	

#### (1) 外来診療

外来診療は予約制を中心として、予約枠をもうけて、週に2回、外来診療を行う。新患、および予約外で診療が必要となった患者について、週に2回、外来診療に当たる。

#### (2) 特殊外来

特殊外来として、ストレス外来、老年期外来、睡眠外来を設置している。

- ① ストレス外来、老年期外来については、見学を行う。
- ② 睡眠外来については、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群、レム睡眠障害、周期性嗜眠症といった特殊な睡眠障害を対象とする（火曜日、金曜午後）。見学を行う。

#### (3) S.S.T. (Social Skill Training)

集団療法として、S.S.T.を月に2回行うので、見学をする。

#### (4) 院内リエゾン

入院中の患者のリエゾン要請については、担当の日を決めて対応する。リエゾン診療についてのカンファレンスを週に1回行う。

#### (5) 緩和ケア

緩和ケア心療については、心療内科・精神科的側面から可能な限り協力していく。緩和ケアカンファレンスにも参加する。

#### (6) 心療内科・精神科の勉強会、カンファレンス

心療内科・精神科の勉強会、カンファレンスを木曜日の時間外に行う。

#### 年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	大阪総合病院精神医学研究会学術総会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会総会参加（任意） 日本緩和医療学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加（任意）
10月	研修中間評価
11月	日本総合病院精神医学会総会参加
12月	日本認知症学会学術総会参加（任意）
1月	
2月	近畿精神神経学会参加・発表
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

## B 研修連携施設

⑫ 施設名：地独) 大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ～ 12:00	・モーニングカンファ ・病棟回診 ・スーパー救急病棟ケースカンファ	・m-ECT ・外来初診インテーク	・病棟回診 ・医療観察法病棟カンファ	・外来初診インテーク	・モーニングカンファ ・m-ECT ・病棟回診	・当直業務陪席 (適宜)	・当直業務陪席 (適宜)
13:00～ 17:00	・上級医外来診療陪席	・病棟回診	・上級医外来診療陪席	・病棟回診	・スーパー救急病棟ケースカンファ	・外部の研究会 ・研修会 (適宜)	・外部の研究会 ・研修会 (適宜)
17:00～	・児童思春期ケースカンファ ・医局会 (隔週)	・チュートリアル	・医局ケースカンファ	・チュートリアル			

### 年間スケジュール

4月	オリエンテーション 新規採用者研修 (3日間)
5月	包括的暴力防止プログラム (CVPPP) 研修 (4日間) 院内第1回医療安全研修
6月	日本精神神経学会学術集会参加 日本司法精神医学会参加 (任意) 日本老年精神医学会 (任意)
7月	近畿精神神経学会参加 院内SST・心理教育研修会
8月	院内第1回トピックス研修 (内容は各年度当初に決定) 日本うつ病学会参加 (任意)
9月	臨床研究基礎セミナー 臨床研修評価面談 (中間)
10月	臨床研究基礎セミナー 日本精神科救急学会 (任意) 日本児童青年精神医学会 (任意)
11月	院内第2回医療安全研修 SST普及協会学術集会 (任意)
12月	日本精神障害者リハビリテーション学会 (任意)
1月	院内第2回トピックス研修
2月	近畿精神神経学会参加 院内研究交流発表会 (2日間)
3月	日本統合失調症学会 (任意) 日本社会精神医学会 (任意) 臨床研修評価面談 (年度末)
その他	認知行動療法、依存症、認知症など、専攻医のニーズに合わせて外部の研修会に適宜参加する機会を確保する

B 研修連携施設

⑬ 施設名：公益財団法人 浅香山病院

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	電気けいれん療法補助	デイケア		電気けいれん療法補助	
	病棟業務、うち週2回ほど外来業務				
午後	病棟業務（リエゾン・コンサルテーション含）				
		救急病棟カンファレンス			
	講義、ケースカンファレンス （月曜、火曜日隔週） 医局会（月曜、火曜日隔週）				

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年次専攻医研修開始 2年次、3年次専攻医研修報告書提出 指導医研修実績報告提出
5月	
6月	精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加 日本うつ病学会学術総会参加（任意） 浅香山病院精神科症例研究会（必須）
8月	
9月	日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本精神科救急学会学術総会参加（任意） 日本認知症学会学術集会（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会学術大会参加（任意） 浅香山病院精神科症例研究会（必須）
3月	日本統合失調症学会学術総会参加（任意） 研修プログラム評価報告書作成 1年次、2年次、3年次専攻医研修報告書

週間スケジュール

B 研修連携施設

⑭ 施設名：医療法人松柏会 榎坂病院

	時間	事項
月曜日	AM PM1:00~2:30  PM3:00~5:00	外来業務 医局会 入退院カンファレンス 抄読会 地域活動
火曜日	AM PM	自由活動 入院診療
水曜日	AM PM	外来業務 デイケアプログラム 入院診療
木曜日	AM PM	外来業務 自由活動
金曜日	AM PM	外来業務 個別勉強会（各指導医による分野別勉強会） 入院診療
土曜日	AM	入院診療

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 春の新入職者研修会（職種を超えたコミュニケーション目的）
5月	
6月	精神神経学会参加（任意） 老年精神医学会参加（任意）
7月	病棟七夕まつり
8月	夏季研修会（本年度入職者の職種を超えたコミュニケーション目的）
9月	
10月	病院旅行 精神科医学会参加、演題発表（任意）
11月	精神分析学会参加（任意）
12月	病棟クリスマス会 認知症学会参加（任意）
1月	
2月	近畿精神神経学会参加（任意）
3月	統合失調症学会参加（任意）

他に、吹田地域精神医療学習会（吹田市の精神科関連の開業医を含む医療機関や保健所などの公的機関、作業所、訪問看護ステーションなどの施設から医師やケースワーカー、公的機関の職員などが合同で行っている勉強会）が月に1回、吹田市精神障がい者ニーズ研究会（吹田市内の精神科医療機関による自主的な勉強会）が不定期に1, 2カ月に1回程度、吹田市精神保健福祉ネットワーク会議（患者の地域移行支援をサポートする目的で行っている多業種による会議）年間16回等に参加する。（参加は任意）

B 研修連携施設

⑮ 施設名：医療法人清風会茨木病院

週間スケジュール

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
7:00					
8:00					
9:00	外来陪席	外来陪席	外来陪席	外来陪席	外来陪席
10:00	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察
11:00					
12:00	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:00					
14:00	デイケア参加	作業療法参加	地域生活活動支援センター”菜の花”参加	訪問看護同行	デイケア参加
15:00	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察
16:00					
17:00			医局会・症例検討		
18:00					
19:00	措置鑑定依頼あれば随時同行して頂く				
20:00					

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加 日本うつ病学会学術総会参加（任意）
8月	
9月	日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本精神科救急学会学術総会参加（任意） 日本認知症学会学術集会（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会学術大会参加（任意）
3月	日本統合失調症学会学術総会参加（任意） 研修プログラム評価報告書作成

B 研修連携施設

⑯ 施設名：医療法人社団 澄鈴会 箕面神経サナトリウム

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務 院長回診	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務
13:30-17:00	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	
15:30-17:00	医局会（第二） 診療会議（第四）				薬事研修会（第四）	

年間スケジュール

4月	大阪府精神科病院協会定例会参加
5月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内褥瘡対策研修会
6月	大阪府精神科病院協会定例会参加 日本精神神経学会学術総会参加 院内医療安全研修会
7月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内感染対策研修会
8月	院内褥瘡対策研修会
9月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内医療安全研修会
10月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内感染対策研修会
11月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内褥瘡対策研修会
12月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内医療安全研修会
1月	院内感染対策研修会
2月	大阪府精神科病院協会定例会参加
3月	大阪府精神科病院協会定例会参加 院内医療安全研修会

## B 研修連携施設

⑰ 施設名：医療法人清順堂 ためなが温泉病院

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟 医局会	病棟	病棟	病棟	病棟

基本勤務時間 9:15～17:15 で早出居残りはありません。

週 4 日：3 2 時間。月～金で週 4 日ただし月曜日は会議あり出勤要。

精神科外来は週に 1 回：午前のみ。予定入院は原則午後であり、ただし救急入院は適時

夜間当直：希望次第で週 1 回 オンコール：精神保健指定医のみ

### 年間スケジュール

4月	オリエンテーション・仮採用（3ヶ月は試用期間）・主治医開始
5月	GW休暇
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月～9月	夏季休暇（4日）
7月	本採用
秋季	デイケア旅行付添、健康診断
10月	研修中間評価、日本神経心理学会、日本精神科病院協会学術総会（任意）
11月	職員患者様インフルエンザ予防接種、日本高次脳機能障害学会（任意）
12月	日本認知症学会学術総会参加（任意）、忘年会、年末休暇
1月	年始休暇
2月	研修総括評価準備、年度サマリ準備
3月	研修総括評価、年度サマリ作成、研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

⑱ 施設名 : 阪和いずみ病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝			症例カンファレンス		
午前	依存症外来	認知行動療法見学	依存症外来	病棟診察見学	依存症外来
午後	院内ミーティング参加	講義	各種心理検査、SST	多職種面接参加	
夕方		第2火、第4水：医局会			

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会総会参加 ※どちらかを選択
7月	
8月	夏季休暇
9月	ヤングカンファレンス参加（若手依存症治療者勉強会）
10月	研修中間評価 アルコール依存症臨床医等研修参加（希望者） アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
11月	グループフォーラム（発表）
12月	関西アルコール関連問題学会（ポスター発表）
1月	
2月	ヤングカンファレンス参加（若手依存症治療者勉強会）
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

⑭ 連携施設名：和泉丘病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来		外来	外来
午後	病棟往診	回診		病棟往診	病棟往診 個別指導
夕方		医局会、症例検討会			

夜間：当直なし オンコール月数回

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	指導医の下、診察に立ち会う。
6月	外来：指導医の指導の下、主治医として診察を行う。
7月～9月	入院：新入院患者を中心に主治医として治療する。
10月	中間評価を行う。
11～2月	指導医の指導の下、患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立し、病歴を聴取して精神症状を把握するとともに自らの心理的問題を処理する。
3月	院内で専門医症例レポート・指定医ケースレポートの症例発表。

B 研修連携施設

⑩施設名： 大阪さやま病院

週間スケジュール

曜日	時間	内容
月曜日	9:00～12:00	指導医陪席。予診聴取
	13:00～17:00	措置入院患者等診察陪席。入退院症例検討会
火曜日	9:00～12:00	指導医陪席。予診聴取
	13:00～17:00	病棟診察
水曜日	9:00～12:00	認知症専門外来陪席。予診聴取
	13:00～17:00	措置入院患者等診察陪席
木曜日	9:00～12:00	認知症専門外来陪席。予診聴取
	13:00～17:00	病棟症例検討会
金曜日	9:00～12:00	入院患者作業療法、もしくは外来デイケア参加
	13:00～17:00	病棟診察

年間スケジュール

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会（任意） 日本老年精神医学会（任意）
7月	
8月	
9月	日本認知症予防学会（任意）
10月	日本認知症学会（任意）
11月	認知症疾患医療センター研修会、協議会
12月	
1月	
2月	病院協会・診療所協会合同研修会
3月	認知症疾患医療センター協議会

## B 研修連携施設

② 施設名：社会福祉法人天心会 小阪病院

### 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前 (8:45～)	病棟業務	病棟業務 感染対策委員会 出席	デイケア診察 病棟業務	病棟業務	外来業務
午後 ～17:00)	病棟業務 医局会・症例検討会 (毎週、16時～) 診療管理会議 (第3週)	病棟業務	自己学習	病棟業務	病棟業務

\* 適宜、措置入院鑑定の診察に同行。

当直 (2回/月)

### 年間スケジュール

4月	大阪精神科病院協会主催の学術研修会
5月	デイケア屋外レクリエーションの引率
6月	
7月	
8月	大阪精神科病院協会主催の学術研修会
9月	大阪精神科病院・診療所協会合同学術研修会
10月	認知症疾患医療センター講演会
11月	
12月	大阪精神科病院協会主催の学術研修会
1月	大阪精神科病院・診療所協会合同学術研修会
2月	発達障がい精神科医研修会
3月	

\* 上記、年間予定表については、研修開催月の変更あり。

その他、医師会、地域の基幹病院主催の研修会へ参加。

製薬会社主催のWeb研修に参加。

B 研修連携施設

㊸ 施設名：医療法人養心会国分病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
始業前	朝礼	朝礼	朝礼	朝礼	朝礼
午前	病棟診察	外来診察陪席	病棟診察	外来診察陪席	病棟診察
午後	作業療法参加	デイケア参加	病棟診察 症例検討会	病棟診察	デイケア参加
17時以降					

年間スケジュール

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会 参加（任意）
7月	近畿精神神経学会 参加（任意）
8月	夏季休暇
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会 参加（任意）
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

㊸ 施設名：好寿会 美原病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	デイケア診察	
13:00-14:00	病棟業務	医局会 症例検討会	外来診察	病棟業務	病棟業務	
14:00-17:00	病棟業務	病棟業務	外来診察	病棟業務	病棟業務	
17:00-9:00				当直業務		

年間スケジュール

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 参加 日本老年精神医学会総会 参加
7月	
8月	夏季休暇
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会 参加・演題発表
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

## B 研修連携施設

④ 施設名：医療法人 河崎会 水間病院

### 週間スケジュール

	午前	午後
月	外来診療	病棟診療（精神一般病棟）
火	病棟診療（精神一般病棟）	病棟診療（精神療養病棟）
木	外来診療	病棟診療（認知症治療病棟）
金	病棟診療（精神療養病棟）	関連施設での研修
土	病棟診療（認知症治療病棟）	講義・報告・症例検討等

### 年間スケジュール

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 参加
7月	
8月	夏季休暇
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会 参加
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

- 前期
- ・ 基本的な精神科診療の面接技法を習得する。
  - ・ 画像診断、脳波、心理検査などの補助検査の理解と実施。
  - ・ 精神保健福祉法を理解し、説明できる。
  - ・ 統合失調症、気分障害、認知症等の診断及び治療の理解と実施。
  - ・ 簡単な精神療法を行うことができる。
  - ・ チーム医療の理解と実施。
- 中期
- ・ 不安障害、身体化障害、ストレス関連障害  
症状性または器質性精神障害等の診断及び治療の理解と実施。
  - ・ インフォームドコンセントの理解と実施。
  - ・ 患者家族への対応。
- 後期
- ・ 児童、思春期精神障害、依存症、中毒性精神疾患  
人格障害等の診断及び治療の理解と実施。

- ・リエゾン・コンサルテーション精神医学の理解と実施。
- ・精神科救急医療の理解と実施。
- ・地域精神医療の理解と実施。
- ・司法精神医学の理解と実施。
- ・臨床治験の理解と実施。
- ・自身の興味ある症例分野に集中して研修を行う。

全期間を通じて、入院患者、外来患者を受け持ち、定期的に症例レポートを作成する。学会活動に積極的に参加し、注目すべき症例については学会発表も目指す。研修評価方法については、精神科専門医制度に沿って評価を行う。

## B 研修連携施設

㊸ 施設名： 医療法人 敬寿会 吉村病院

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来業務	外来業務 デイケア	外来業務	外来業務	外来業務
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 院内研修 勉強会	病棟業務 医局会 症例検討会

夜間：当直あり

### 年間スケジュール

4月	オリエンテーション 精神科総合基礎研修
5月	精神療法基礎研修
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	薬物療法基礎研修
8月	夏季休暇
9月	
10月	研修中間評価 日本児童青年精神医学会学術総会参加（任意）
11月	
12月	日本認知症学会学術総会参加（任意）
1月	医療事故安全管理基礎研修
2月	
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

㊦ 施設名：七山病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:45～9:00						
9:00～12:00	病棟	病棟	外来	病棟	外来	
13:00～14:00		医局会		入院カンファレンス	入院カンファレンス	
14:00～17:00	病棟	勉強会	病棟	病棟	病棟	

年間スケジュール

4月	
5月	院内講演会
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	院内講演会
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	
11月	日本精神科医学会学術大会 地方精神神経学会参加・演題発表 院内講演会
12月	
1月	
2月	院内講演会
3月	日本統合失調症学会（任意）

B 研修連携施設

㊦ 施設名：仁明会病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診察陪席	外来診察陪席	病棟業務	外来診察陪席	外来診察陪席
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	デイケア業務	病棟業務
					医局会 症例検討会
その他			当直（月2回）		

年間スケジュール

時期	研修内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会 参加（任意） 日本老年精神医学会 参加
7月	近畿精神医学会 参加
8月	夏季休暇
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会 参加
3月	研修総括評価
その他	医師会が主催する、「医療倫理」、「感染対策」、医療安全」等の各研修に参加する

B 研修連携施設

㊸ 施設名：東加古川病院

週間スケジュール

東加古川病院 週間スケジュール(週4もしくは4.5勤務を選択)

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
13:00-15:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務 クルズス	病棟業務 クルズス	病棟業務 クルズス	病棟業務
15:00-17:30	教育回診	医局会 症例検討会	病棟業務	教育回診	救急症例検討会	病棟業務
	当直(隔週)					

年間スケジュール

4月	オリエンテーション S R 1 研修開始/S R 2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 B L S 講習会 C V P P P (包括的暴力防止プログラム) 研修
7月	
8月	
9月	
10月	S R 1・2・3研修中間報告書提出 B L S 講習会 C V P P P (包括的暴力防止プログラム) 研修
11月	地方精神神経学会参加・演題発表
12月	研修プログラム管理委員会参加 日本精神科救急学会参加
1月	
2月	地方精神神経学会参加・演題発表
3月	S R 1・2・3研修報告書・研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

㊸ 施設名：伊丹天神川病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00 ↓ 9:30	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:30 ↓ 12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
13:00 ↓ 17:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
その他	16~17時 医局会					

年間スケジュール

時期	研修内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	近畿精神神経学会参加
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会参加
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成
その他	作業療法、訪問看護、行政とのカンファレンス、薬剤勉強会の参加 家族教室・ストレスセミナーの参加、各種検査関係実習等

B 研修連携施設

③⑩ 施設名：砂川市立病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:30-14:30	急性期病棟 多職種カンファ		高齢者病棟 多職種カンファ		
13:30-17:00	外来診療	外来診療	外来診療	もの忘れ専門外来	外来診療
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
その他	医師カンファ 18:00～ リエソナチームカン ファ 12:30～13:30		認知症初期集中支援 チーム員会議 第4水曜 砂川市 14:30～15:30 空知中部広域連合 15:30～16:30	偶数月第2木曜日 精神科調整会議 17:00～17:50 行動抑制委員会 17:50～ もの忘れカンファ 18:00～20:00	認知症ケアチームカンファ 15:00～16:00

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会・日本老年精神医学会参加
7月	北海道精神神経学会演題発表
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	北海道精神神経学会演題発表
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

B 研修連携施設

㊸ 施設名：高知大学医学部附属病院

週間スケジュール

高知大学医学部精神科 週間予定表							
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
8:30～9:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	不定期に外部講師による最先端の精神医学・精神医療保健に関する講演会が開催され、参加自由	
9:00～12:00	外来業務・病棟業務	外来業務・病棟業務	回診・事例(病棟)検討会	外来業務病棟業務	外来業務・病棟業務		
12:00～13:30			医局会		昼休み		
13:30～14:00	指導医とのミニカンファレンス	指導医とのミニカンファレンス	行動制限最小化委員会	指導医とのミニカンファレンス	指導医とのミニカンファレンス		
14:40～17:15	外来業務・病棟業務	外来業務・病棟業務	回診・事例(病棟)検討会	外来業務・病棟業務	外来業務・病棟業務		
18:00～19:00			医局会・外来事例検討会				
19:00～20:00			専門医・指導医講義				
	医療安全委員会・感染症委員会・医療倫理委員会の各種講習会は大学病院主催・開催分に参加						

年間スケジュール

高知大学医学部精神科 年間予定表			
	臨床	教育	研修・研究発表
4月	研修オリエンテーション		高知県精神科医会
5月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
6月	ピアレビュー・指導医との面談(1)	医療再生事業(精神科医養成)講義	日本精神神経学会 日本老年精神医学会
7月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
8月		医療再生事業(精神科医養成)講義	高知県医師会学会・ 日本うつ病学会
9月	ピアレビュー・指導医との面談(2)	医療再生事業(精神科医養成)講義	日本児童青年期精神医学会・日本生物学的精神学会・日本神経心理学会
10月		医療再生事業(精神科医養成)講義	日本臨床精神薬理学会
11月		医療再生事業(精神科医養成)講義	中国四国精神神経学会 日本総合病院精神医学会
12月	ピアレビュー・指導医との面談(3)	医療再生事業(精神科医養成)講義	高知県精神科集談会
1月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
2月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
3月	ピアレビュー・指導医との面談(4) 総括と次年度の研修内容決定		日本社会精神医学会
厚労省や国立センター開催の研修会参加は、プログラム委員会で決定し参加を検討			